

難題克服シリーズ③ 1級実技（面接）試験 一般化の意味を理解し指導できる講座

1級合格を目指す方が事例をととして事例相談者のふだんの面談の癖を把握することができる						
東京	2026年11月7日(土)	9:30~16:30	会場: 全労連会館 御茶ノ水	受講(税込)	会員: 20,000円	一般: 25,000円
内容	1級技能検定の面接試験において「一般化（概念化）」のスキルは、厚生労働省・試験実施機関が求めているものの、多くの受検者が難しいと感じ、対応に苦慮しています。 この講座は「一般化（概念化）」の意味を正しく理解し、面接試験で使えるようにするものです。					
	「一般化」について、1級面接試験の「試験実施概要」の以下の文章に説明されています。 ① 「事例指導とは、相談者へのよりよい支援」 ② 「事例相談者のキャリアコンサルタントとしての成長を目的に」 ③ 「事例相談者の担当する事例を通して指導を行うものです」とあります。 また、「評価区分」の「問題把握力」では、「事例相談者が担当している相談者や事例相談者の状況を客観的に把握し、事例の本質を掴むことができること。事例相談者の能力やスキルを客観的に把握し」とあります。 これらのことから、1級面接試験では、「事例検討」ではなく「スーパービジョン」を行うことが求められていることがわかります					
	したがって、「事例相談者の担当する事例を通して指導を行う」ことや「相談者や事例相談者の状況を客観的に把握」「事例相談者の能力やスキルを客観的に把握」の意味を的確に理解し、「スーパービジョン」としての対応をすれば、加点を促すことができます。 「事例指導者視点の問題」は、事例相談者が気付いていない面談技法上の「クセや偏り」（面談の進め方の傾向）ですので、事例指導者が問題を見立て、それに気づいてもらうための働きかけをする必要があります。 本講座では、スーパービジョンに必要な「一般化」について、2年目のCCの成長のために面談技法上のクセを「見立てる」際に必要な場面をメインに解説し、実践していきます。 具体的には、事例相談者の面談技法上のクセや偏りを見立てる段階で、「一般化」を意識した発話もしくは質問をする方法を理解します。					

受講することで、理解し身につく内容	
事例検討とスーパービジョンの違いが理解できます。	相談者とのやりとりの話から、2年目のCCの面談のやり方のクセに気づいてもらうためのやり取りになります。
一般化することで「事例指導者視点の問題把握」が分かります。	ケース記録からCCが気づいていない面談技法上の問題が何かを読み取り、それに気づいてもらうためにも質問を意識することで一般化が自然と定着します。
※ 指導者としてご自分の面談のクセや偏りを客観的に理解していますか？口頭試問でも問われます。	